

- 一人暮らしを始めて自分で料理をするようになった。

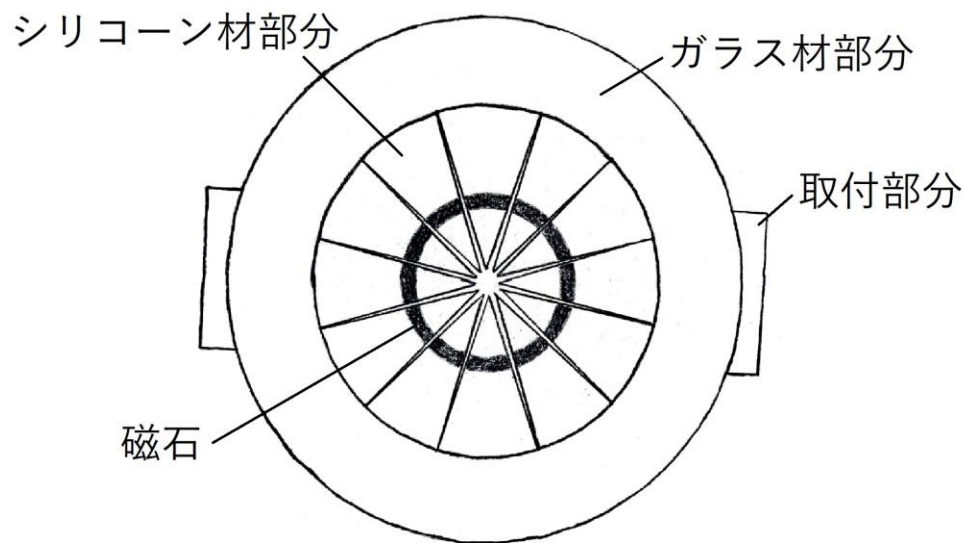


- 料理をするときに、油跳ねによってキッチンが汚れたり、腕などに付着して火傷してしまうことがあった。



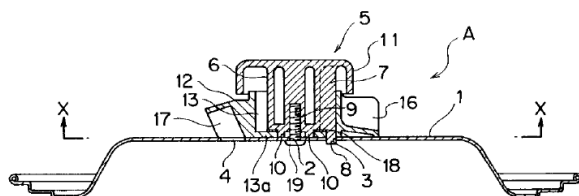
- このような問題を解決するために、蓋をしたまま調理できる鍋蓋を考案した。

- 円形部のシリコーンは複数の扇形状に分離されており、隣接する扇形の半径同士に隙間が存在し、前期鍋蓋本体の円形部の中心に穴が存在する。これらによって、円形部の中心から、菜箸などを入れて蓋を曲げて中身に触れることができる。
- 以下は、本発明品の鍋蓋本体の平面図である。

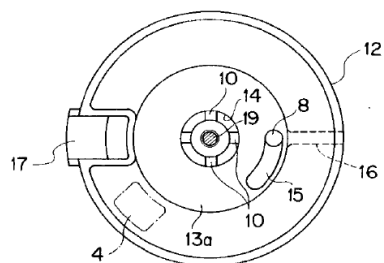


特許情報プラットフォームの特許・実用新案権検索で「鍋蓋 貫通」と検索し、27件が該当した。その中で一番近いものは以下の発明であった。

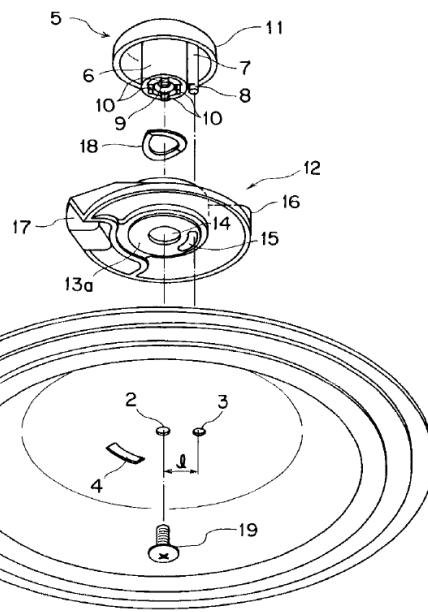
鍋蓋（実全平03-003937）



第 1 図

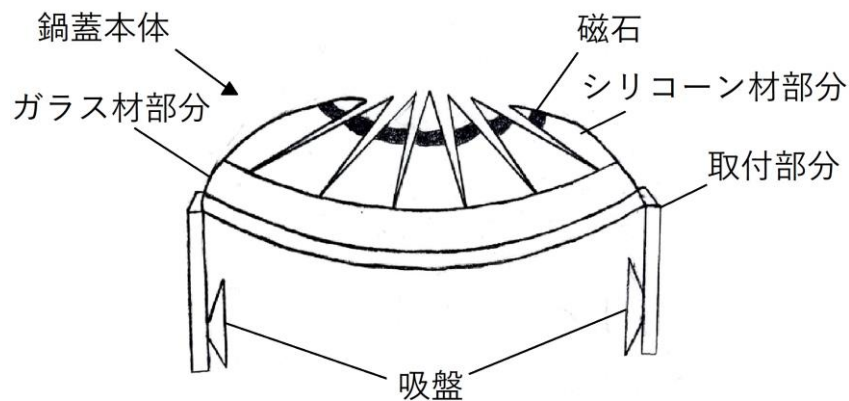
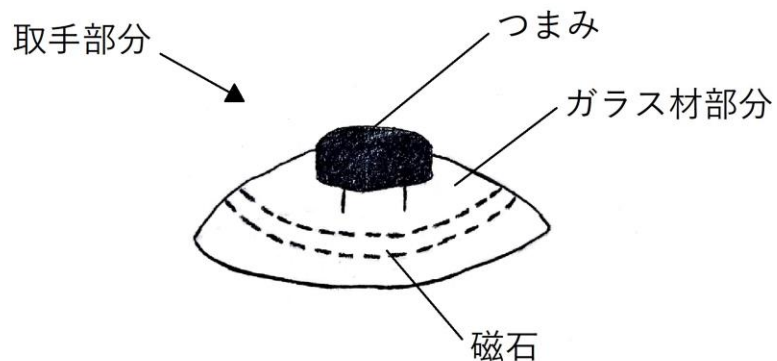


第 2 図

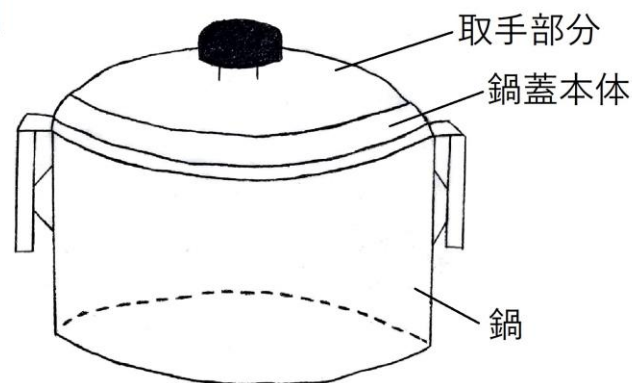


第 3 図

- ・本発明品は、鍋蓋本体と取手部分の2つの部分からなる。
- ・磁石によって鍋蓋本体と取手部分は接着可能である。



全体図



実施方法

